

第29回 日本胎盤臨床医学会大会 開催にあたって

健康寿命を延ばせ！動けるからだとプラセンタ ～コロナ免疫力とプラセンタ～

大会実行委員長 中村 光伸

光伸（こうしん）メディカルクリニック 院長

日本胎盤臨床医学会も今回で 29 回を迎えました。本医学会は、2007 年の第1回大会から、プラセンタを積極的に使い、多くの患者さんに喜ばれている先生方の経験を集約し、かつ、さらなる普及と発展に努めてきました。近年では、基礎研究分野での新しい報告が毎年いくつもあり、プラセンタの価値が高まっていることを実感しております。

この度、大会実行委員長の任を仰せつかり、たいへん光栄に存じており、さらなるプラセンタ療法の理解と発展に努めていく次第です。ご協力いただくすべての方々に、あらためて厚く御礼を申し上げます。



さて、今回は大会テーマを『健康寿命を延ばせ！動けるからだとプラセンタ～コロナ免疫力とプラセンタ～』といたしました。健康寿命の大切さは、近年よく耳にする言葉です。長寿は、医学が目指す一つのメインテーマですが、実際に高齢化社会になっていくと大切なのは健康寿命であり、これを幸福寿命という人もいます。高齢化社会の問題点は、ここで述べる必要もなく多くのメディアで取り上げられています。私は、「高齢化社会＝負の社会」ではなく、「高齢化社会＝多くの知的財産が満ち溢れている、正の社会」となるべきであり、またしないと未来がない。その前提で医学の進む道があると考えています。いかえるならば、医学が進むほど、多くの国が高齢化社会になります。高齢化社会になればなるほど、その国々が豊かになる形がないと医学の進むべき未来が見えなくなってきます。その答えの一つが、『健康寿命を延ばせ！』であります。元気でパワフルな 90 歳が、その経験と知識をしっかりと若い 70 歳に伝授して生産性をガンガン上げる社会をイメージし、“高齢者は国の財産” “高齢者が多い国ほど素晴らしい国”となるよう、医師として活動をしたいです。

健康寿命を延ばすのは、身体のあらゆる機能を保全または復活しなければならない、たやすいものではありませんが、先ずのプラセンタは、アンカードラッグ（ドラッグが適切な表現かはなやむところですが）の一つになりうるものです。今回の大会では、アンカードラッグになぜなりうるかを考えていただきたく、講演と演題をそろえました。

招待講演は、全身の細胞に必要な血管と健康の話を、今メディアで一番注目されている池谷敏郎先生にお願いしました。そして、指定演題で、Covid-19 の話を長瀬眞彦先生そしてロシアからの 2 名の医師に、脳の話菅原道仁先生に、更年期の話を宗田聡先生に、痛みのお話を松岡修平先生に、防病と健身のお話を中條明子先生に、伺えし、これからの医師には絶対必要な、患者を全身で捉える健康寿命への道、を考えるヒントになれば幸いです。

奮ってご参加くださいますよう、改めてお願い申し上げます。